

慶應義塾大学

外国語教育研究センター

旧語学視聴覚教育研究室

# 紀要 36

語学クラスと概論クラスにおける授業補助

ホームページの試み……………松岡和美(1)

『西洋事情』における対句表現の使用と

その修辭的効果……………霜崎實(25)

慶應義塾大学看護医療学部学生の学習指向性:

英語必修科目の場合……トーマス・ハーディ, 杉本なおみ(58)

日本汉语教学的現状与网上教学的尝试……山下輝彦(80)

蔡元培的教育思想……………張継濱(96)

## 語学クラスと概論クラスにおける 授業補助ホームページの試み

松岡 和美

### 1. はじめに

この報告書では、教員が設置したホームページの紹介と、2003年度前期の終わり(7月)に行った学生アンケートの結果をまじえて、授業補助のためのホームページ利用の利点や注意すべき点について考察する。経済学部英語部会では2003年3月に英語科目ホームページを設置した。その際に、学生の学習指導支援の一環として教員の個人ホームページの開設も奨励された。今回紹介するホームページはその一例として実験的に作成・利用されたものである。

ここで報告するホームページプロジェクトはコンピューターを使った学習形態であるeラーニングとは性質を異にすることを明確にしておきたい。「eラーニング白書」(先進学習基盤協議会2002)の定義によると、「…学習者とコンテンツ提供者の間にインタラクティブ性が提供されていることが必要である。ここでいうインタラクティブ性とは、学習者が自らの意思で参加する機会が与えられ、人またはコンピューターから学習を進めていく上での適切なインストラクションが適宜与えられることである。(54ページ)」とある。後のセクションで述べる制約によって、今回開設したホームページにはこの「インタラクティブ性」を実現する機能は設置されていない。ここで報告するプロジェクトの主たる目的は、あくまでも通常の授業運営の補助的な役割をホームページがどの程度担い得るかを探ることである。

全体の構成は以下のとおりである。まず、2節で今回利用したホーム

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み

ページの作成に関する情報を提示する。ホームページを利用して授業支援を行った4つのクラスについて3節で簡単に紹介したうえで、4節でホームページを構成する内容を提示する。5節はホームページ利用に関する学生アンケートの結果と分析である。4つのクラスに共通して見られるパターンと、クラス別のパターンについて説明する。6節でホームページを設置した教員側から見たホームページ利用の利点・問題点を述べ、最後に海外の大学で設置されている授業支援用ホームページの内容と利用法を紹介する。

2. ホームページの作成

今回開設したホームページ (<http://www.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/index.htm>) は大学貸与コンピューター (IBM NetVista・Windows XP) とIBMの「ホームページビルダー7」を用いて作成した。「ホームページビルダー」は初心者ユーザー向け設定が追加され、ホームページ作成用に近年広く使われているソフトウェアである。ワープロソフト等を使用できるレベルのユーザーであれば、マニュアルを参照するだけで基本的なホームページを作ることができるようにデザインされている。大学サーバーへの転送には無料シェアウェアである「FFFTP」を使用した。2003年8月現在、ヒット数は2000弱となっている。ホームページの全体は約1.7MBで写真や動画をまったく使用していないため、比較的サイズが小さいサイトといえる。これは、閲覧者サイドへの端末への負担が少ない(軽い)ページにすることを心がけた結果である。

3. ホームページを利用したクラス

当該ホームページは2003年の4月上旬に開設された。2003年春学期にこのホームページを利用し、アンケートの対象となったのは日吉・三田キャンパス開講の4クラスである。

表1からわかるように、クラスのタイプは語学(英語・日本語)・概論

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み

表1 ホームページを利用したクラス

日吉	経済学部	「英語 Study Skills」	1年生	クラス指定
日吉	国際センター	「日本語1年生III-B」	1年生(留学生)	経済学部・商学部指定
三田	経済学部	「英語セミナー(レベル3)」	3・4年生	言語学の初歩を英語で、ゼミ形式
三田	文学部	「言語学概論III」	2・3・4年生	言語学のさまざまな分野の紹介

(言語学概論)・その中間(英語セミナー)と複数のタイプにわたっている。また、学生も経済学部・商学部・文学部の3学部から履修しており、学年やクラスサイズも多様である。

まず、日吉キャンパスの2クラスは両方とも1年生を対象とした英語と日本語、つまり「語学」のクラスである。日本語クラスの履修者は経済学部・商学部に入学者の留学生である。それに対して、三田キャンパス開設の2クラスは、何らかの意味で英語もしくは日本語を使って特定の分野(ここでは言語学)の知識を体系的に学んでゆくタイプの授業である。両方とも初学者対象であるが、「英語セミナー(レベル3)」は授業運営のすべてを英語で行うことが前提となっている。したがって、ホームページでの連絡その他の情報も英語で提示されている。また「英語セミナー(レベル3)」は経済学部設置の科目であるが、他学部にも開放されており、文学部の学生も受講している。

4. ホームページの構成

サイトのコンテンツ(内容)については、学内の既存の教員ホームページを参考にし、教員から見て学生に有用と思われる項目も加えて構成した。

#### 4.1. トップページの構成

トップページは表2に示す構成となっている。このページは各クラスへのリンクの入口となるほか、特定のクラスの内容にこだわらない参考資料が含まれている。また、ページ内に新しく設定したリンクだけにとどまらず、学内での語学関係のイベントの情報も「新着情報」に含めることにした。国際センター主催の留学説明会や語学視聴覚教育研究室（現・外国語教育研究センター）主催のライティングワークショップがその一例である。

表2 トップページの構成要素

新着情報	授業関係	学生さんへ	参考資料・よみもの	教員紹介	リンク
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶更新内容の紹介</li> <li>▶学内・学外の語学関係イベントへのリンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶Study Skills</li> <li>▶英語セミナー L3</li> <li>▶言語学概論 III</li> <li>▶日本語 1年生 III-B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶オフィスアワー</li> <li>▶推薦状依頼ガイド</li> <li>▶他の言語学クラス</li> <li>▶留学リンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶敬語の作り方</li> <li>▶アメリカの日本語教師</li> <li>▶推薦図書(クラス共通)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶経済学部および英語部会ホームページ掲載分へのリンク</li> <li>▶研究業績リスト他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶慶応義塾公式ホームページ</li> <li>▶英語部会ホームページ</li> <li>▶言語文化研究所など</li> </ul>

学生は「授業関係」にある、履修クラスのリンクからクラス別の情報を得るように指示されていた。学期末のアンケートでは、クラス別の内容にくわえて、表2の6つの構成要素についても学生の評価を求めた。

#### 4.2. クラス別ページの構成

クラス別のページへのリンクである「授業関係」の内容は以下のとおりである。共通する部分も多いが、クラスによって設けられていない項目もある。

各項目の内容についての補足情報は以下のとおりである。「シラバス」「講義要綱」は授業や冊子で配布されたものとほぼ同一である（ホームページ掲載シラバスからは個人メールアドレスは削除されている。）

表3 「授業関係」各クラスのリンク構成要素

Study Skills	英語セミナー (レベル3)	言語学概論 III	日本語 1年生 III-B
<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡事項</li> <li>シラバス</li> <li>Q&amp;A</li> <li>自由課題解答例</li> <li>スピーチ関係情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡事項</li> <li>シラバス</li> <li>Q&amp;A</li> <li>講義概要</li> <li>推薦図書</li> <li>リザーブブック</li> <li>自由課題</li> <li>期末試験講評</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡事項</li> <li>シラバス</li> <li>Q&amp;A</li> <li>講義概要</li> <li>推薦図書</li> <li>リザーブブック</li> <li>自由課題</li> <li>言語学関連クラス紹介</li> <li>期末試験講評</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡事項</li> <li>シラバス</li> <li>Q&amp;A</li> <li>講義概要</li> <li>推薦図書</li> <li>自由課題</li> <li>期末試験講評</li> <li>スピーチ関係情報</li> </ul>

- ◆「連絡事項」: 毎回の授業の予習ページ・宿題の確認と、講義内容の補足情報などが主な内容であった。必要な場合は、他の授業に関連するページへのリンクも設定した。
- ◆「Q&A」: 授業の前後やメールで寄せられた学生からの質問に回答を加えて掲載したものである。
- ◆「推薦図書」: 特に「言語学概論 III」では概論という内容の性質上、講義済みの内容に関連するものを随時追加した。
- ◆「リザーブブック」: 三田のクラスでは三田メディアセンターのリザーブブック制度を活用していたので、メディアセンターのブックリストへのリンクを設定した。
- ◆「自由課題」: 授業によって多少性質が異なっている。「英語セミナー」では授業の内容に特に関連しないライティング課題、「言語学概論 III」では授業内容の理解につながる補足課題（授業で解説を行った）、「日本語 1年生 III-B」では宿題として出された新聞記事の要約課題の追加分を掲載した。
- ◆「スピーチ関係情報」: Study Skills と日本語クラスで、スピーチに対する不安が強いとの声が多かったので、「スピーチのコツ」に関するサイトへのリンクを設定した。また、Study Skills では書画カメラの使用方法についての情報を掲載した。

表3にある項目のうち、学生アンケートでは、学期中に利用したものについて意見を求めた。「期末試験講評」などは掲載時期の都合で、アンケート項目には含まれていない。

#### 4.3. 「メールアドレス」「掲示板」について

「連絡用メールアドレス」「掲示板」の2点については設置を検討したが、今回のホームページには加えなかった。聞き取り調査の結果、自分のホームページに連絡用メールアドレスを設置したことのある教員の多くが、いわゆるスパム・迷惑メールの対応に困っているという状況がわかったことが主たる理由である。「掲示板」もその匿名性から意図しない書き込みなどの問題が考えられることから割愛することになった。設置するホームページにパスワード等のアクセス制限がかけられない場合にはこれらの双方向コミュニケーション機能の設置には問題が多いと思われる。代わりに、学生には授業で配布する紙媒体のシラバスを用いて教員のメールアドレスを伝えた。

### 5. 教員ホームページに対する学生の意見：学期末アンケート結果

#### 5.1. アンケート実施方法

ホームページを利用した4つのクラスすべてにおいて、無記名のアンケートを実施した。実施時期は7月前半で、期末試験の前の週にクラス内から自宅で記入・提出、もしくは期末試験終了後に教室内で行った。

質問内容は以下の通りである。

- ・教員（著者）のホームページにアクセスしたことがあるか（なければその理由）
- ・アクセス頻度
- ・10種類の項目の有用度の評価

- ・希望更新頻度
- ・ホームページでの課題の出し方についての意見
- ・今後ホームページに加えてほしいと希望するもの
- ・他の教員が授業連絡用のホームページを持つことについての意見
- ・自由コメント

教員ホームページにアクセスをしたことがない学生には、アクセス頻度・項目別の評価・希望更新頻度の質問に回答しない旨を指示文の形で提示した。

回答者は「実質上の履修者」（履修登録はしているがクラスに出席していなかった学生を除いた学生）のうち、アンケート実施日に欠席していた2名を除いた91名である。回答者の構成は以下のとおりである。

表4 回答者のクラス別構成

英語 Study Skills	55名
日本語1年生 III-B	21名
英語セミナーレベル3	8名
言語学概論 III	7名

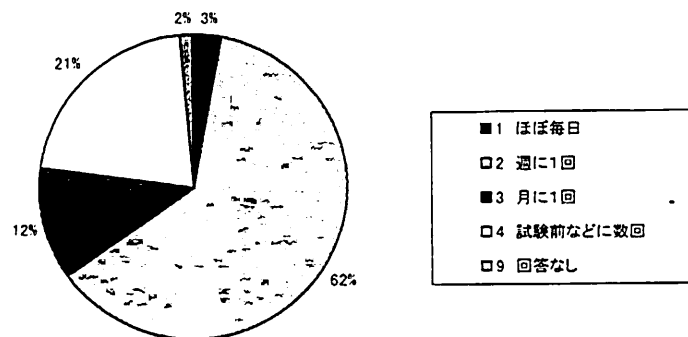
クラス間の履修者の数が大きく異なっていることに注意する必要があるが、以下のセクションでは回答者全体のパターンについて述べ、次に個々のクラスに見られる独特のニーズについて考えたいと思う。

#### 5.2. アンケート結果

##### アクセスの頻度・パターン

アンケート対象のホームページにアクセスした学生のうち、アクセスの頻度については半分以上(65%)が「ほぼ毎日」「週に1回」と回答している。

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み



グラフ1 ホームページアクセス頻度

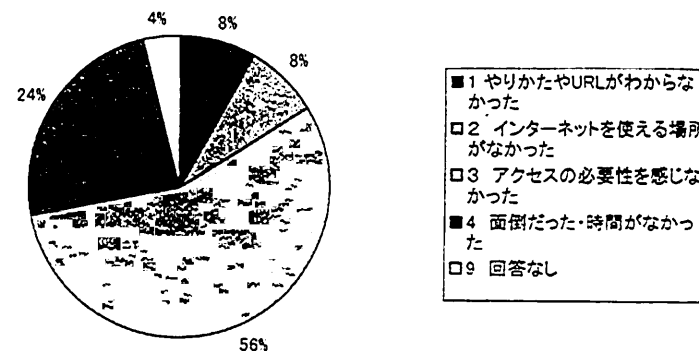
なお、「試験前に数回」と回答したのは「英語 Study Skills」履修生のみであった。

今回のアンケート対象になっている著者のホームページに「アクセスしたことがない」と答えたのは、「英語 Study Skills」履修者のうちの25名であった。これは全体の27%に相当する。他の3クラスについては「ホームページの連絡事項を毎週チェックすること」という明確な指示がクラス内で出されていたのに対して、学部内の共通クラスである Study Skills ではホームページを使用していない他教員担当のセクションもあり、ホームページ独自の情報の提示が比較的少なかったことが一因であると思われる。

アクセスしなかった理由のうち、「必要性を感じなかった」「面倒だった」などの理由がほとんどを占めている(80%)。「やりかたやURLがわからなかった」「インターネットが使える場所がなかった」などコンピューターリテラシーのレベルやハード面にかかわる回答は4名(16%)にとどまった。少なくとも、今回の調査では「ホームページを見たかったが見ることができなかった」という意見は少ないことがうかがえる。

もちろん、今回見られた回答パターンは、アクセスしなかった学生が「もしホームページを見る必要性を感じたら確実にホームページを見ることができる」ということを保証するものではない。しかし、ホームページ

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み



グラフ2 ホームページにアクセスしなかった理由

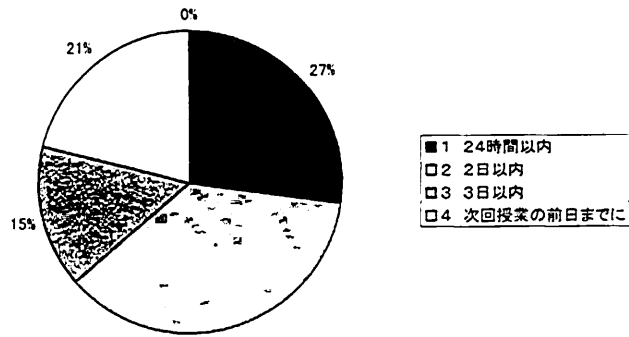
を毎週見ることが明確に指示した3つのクラス内においては、ホームページを見ることができないという苦情はほとんどなかったことを指摘しておきたい。特に1年生の留学生在履修している「日本語1年生 III-B」クラス内では、「学内の端末の数が充分で閲覧にまったく支障を感じなかったことは意外であった」というコメントが聞かれた。

ホームページの希望更新頻度

当該ホームページの更新は、学期中は授業終了後1~2日後に行われていた。ホームページを利用したことのある学生の希望更新頻度については、64%の学生が授業終了後1~2日以内の更新を求めているということがわかる。しかし、それ以外の選択肢(3日以内~次回授業の前日まで)を選んだ回答者が3分の1以上いることを考えても、特に目立ったパターンは見られないように思われる。

その理由については、クラスの開講パターン(週2回か週1回か)や、学生のホームページの使い方の多様性が関連していると考えられる。授業の直前に予習・宿題を簡単に確認するだけであれば、それほど早急な更新は必要ないであろうし、関連情報や補足課題の情報を求めている学生であれば、できるだけ早い更新は必須と考えられる。留学生の日本語クラス授業内では、できるだけ早い更新を望む声が聞かれた。アンケートの自由コ

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み



グラフ3 ホームページの希望更新頻度

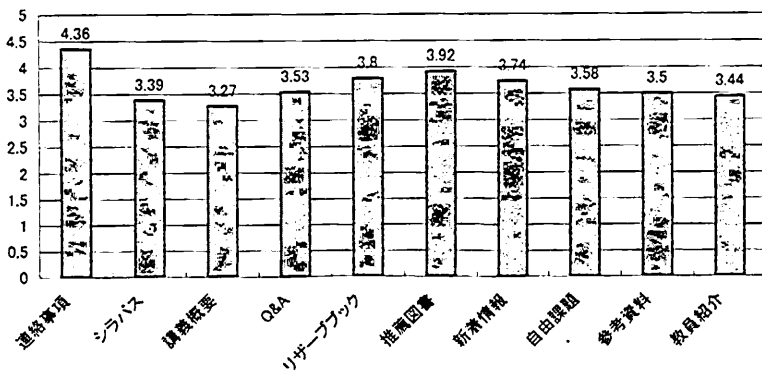
メントでも次のようなものが寄せられている。

・「大切なのは早く更新することだと思う。そうじゃないと意味がなくなる。逆によくないと思う。(日本語1年生 III-B)」

各コンテンツの評価

アンケートでは4節で紹介したコンテンツ(内容)のうち10種類(連絡事項・シラバス・講義概要・Q&A・リザーブブック情報・推薦図書・新着情報)

項目別(該当クラス全体)



グラフ4 コンテンツ項目別評価(平均点)

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み

若情報・自由課題・参考資料・教員紹介) についての評価を5段階で求めた。「1」はあってもなくても同じ、「5」は非常に役に立った」という評価と対応しているので、平均点が高いものは学生が有用と認めていると解釈した(ただし、クラスによって該当しない項目があることにより、「3」評価には「どちらともいえない」と「該当せず」が混在している点に注意。) 回答者全体の評価についてはグラフ4を参照されたい。全体の平均点は3.65であった(5点満点)。

評価項目のうち、特に学生の授業履修を支援する要素の大きい5項目(連絡事項・Q&A・リザーブブック情報・推薦図書・新着情報)の評価が高いことがわかる(平均値3.87)。

表5 コンテンツ項目評価の比較(5点満点)

すべての項目の平均値	3.65
学習支援5項目の平均値	3.87

学生からの自由コメントも、学習支援項目を評価するものが目立った。

- ・HPがあると予習復習に役立ちます。ちょっと聞き逃しちゃった時なども、参考文献がアップされていれば自分であたれるので、私はとても便利だと思います。(言語学概論 III)
- ・授業後の復習にもなり、宿題をやるときにも便利です。(日本語1年生 III-B)
- ・補足情報をHPで見ることができれば、その科目について興味があるとき、より理解を深めることができる。(英語セミナーレベル3)
- ・連絡事項やアドバイスはとても役に立つ。(英語 Study Skills)

自由課題の評価があまり高くない理由としては、前に述べたとおり、自由課題の性質がクラスによって相当異なっていたことが原因と考えられる。授業で扱う内容や宿題に準拠したもの(日本語1年生 III-B)と授業内

語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み

容とは直接関係ないライティングプロジェクト（英語セミナーレベル3）では、授業内容を理解するうえでの「支援度」には大きな差があると考えられるからである。

履修者から見てあまり評価が高くなかった（平均値3・5を下回るもの）は「シラバス」「講義概要」「教員紹介」の3つであった。シラバスについては以下のようなコメントが見られた。

- ・シラバスを紙でもらっていたので必要は感じなかった。（英語 Study Skills）
- ・授業の最初に配られたシラバスがとても整理されたものだったので、特にHPが必要と感じることはあまりありませんでした。（英語セミナーレベル3）

「講義要綱」はすべての学生に紙媒体で提供される情報と同一のものである。これらの情報は学生というよりはむしろ、履修者以外の学内・学外の閲覧者に向けた情報であるという位置づけがより適当であろう。

「教員紹介」についてはクラスごとの評価が異なっていた。

表6 「教員紹介」のクラス別評価（5点満点）

英語 Study Skills	3.10
日本語1年生 III-B	3.57
英語セミナー（レベル3）	4.13
言語学概論 III	3.71

この評価の違いには、クラスの内容の差が関係していると思われる。日吉の二つのクラス（Study Skills・日本語）は語学習得を主な目的にするクラスである。それに対して、三田のクラス（英語セミナー・言語学概論）は教員の専門分野である「言語学」の概論を学ぶ内容になっている。よっ

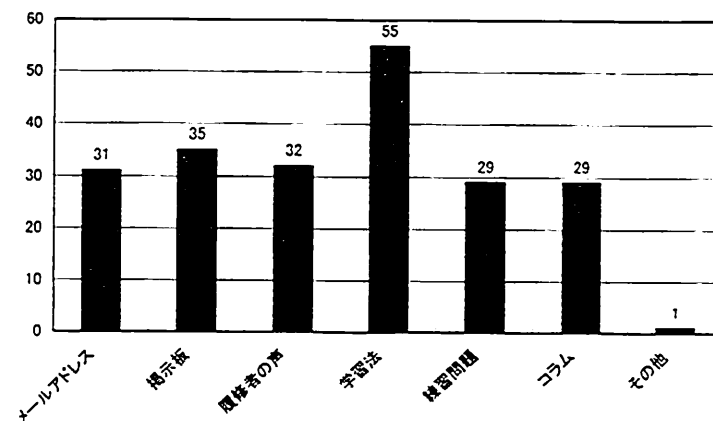
語学クラスと概論クラスにおける授業補助ホームページの試み

て、そのようなクラスを履修している学生が教員のバックグラウンドに関心を持つのは自然なことであると思われる。英語セミナー（レベル3）の履修者において特に評価が高い理由は明らかではないが、担当教員の留学歴・海外での教育歴に興味を持った可能性もあると思われる。

ホームページに加えてほしいと希望するもの

「今後ホームページに加えてほしいと希望するもの」の選択肢としては「問い合わせ用メールアドレス」「掲示板」「これまでの履修者の声・後輩へのアドバイス」「学習法に関する情報」「自習用練習問題」「授業の内容に関連した話題のコラム」「その他（自由記述欄つき）」を用意した。なお、この設問は複数回答可とした。この質問には、ホームページを利用した学生も、そうでない学生も回答している。

以下のような回答パターンが見られた。（「その他」を選んだ1名からの具体的な提案の記述はなかった。）



グラフ5 ホームページに加えてほしい項目

グラフ5に見られるとおり、「学習法に関する情報」を選択する回答が目立って多かった。先に見た「学習支援項目」の評価の高さと関連性の高い

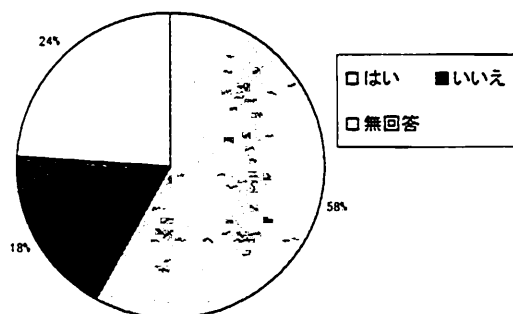
回答パターンであると思われる。学生がホームページに求めているものは授業内容の理解につながる学習支援情報であることが明確になった。

他の選択肢の支持の高さには目立った差はないように思えるが、双方方向のコミュニケーションを可能にする「掲示板」への関心も高いことがうかがえる。「連絡用メールアドレス」については、紙媒体に印刷されたメールアドレスを参照することなく、サイトから直接連絡できることから、学期中の教員へのメール連絡の中で「サイトにもアドレスを入れてほしい」と要望する学生も見られた。

#### 授業連絡用ホームページの是非について

最後に、授業連絡用ホームページ全般についての学生の意見を求めた。「はい」「いいえ」の選択肢の後に、理由を書く欄も設けた。この質問には、ホームページを利用した学生も、そうでない学生も回答している。結果は、以下のグラフ6に示した。

(Q. 他の教員にも授業連絡用のHPを作ってほしいと思いますか?)



グラフ6 授業連絡用HPについての意見 (全体)

肯定的な回答を寄せているのは、全体の58% (53名) である。その理由のほとんどには「役立つから」「便利だから」という表現が使われていた。

- ・予習に役立つ。(日本語1年生 III-B)
- ・いろいろな面から便利だから。(日本語1年生 III-B)
- ・事情があって授業を休んだときなどに便利だと思った。(英語セミナーレベル3)
- ・あった方が便利だから。(英語 Study Skills)
- ・いざというときに助かるから。(英語 Study Skills)
- ・非常に有用だった。(英語セミナーレベル3)

また、「安心感」やネットの特徴である、情報の受け手の都合に合った利用ができることを理由にあげる学生もいた。

- ・あるととても安心するし、またやる気も出る。(言語学概論 III)
- ・あった方が安心するから。(英語 Study Skills)
- ・自分のいい時間にチェックすることができるので、便利だと思います。(日本語1年生 III-B)
- ・簡単に確認ができるから。(英語 Study Skills)

否定的回答と共に寄せられた自由記述では「情報格差」を問題点としてあげるものが目立った。

- ・いくつもの授業でそういうことが起こると、HPを見にくい環境の人と情報の格差ができるから。(英語 Study Skills)
- ・全員がインターネットを使えないかもしれないから。それだと不利。(英語 Study Skills)
- ・授業中で伝えればよい。情報に格差が出る。(英語 Study Skills)

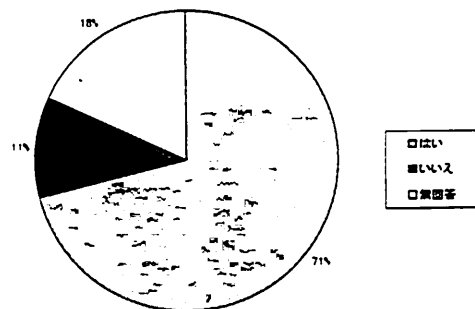
このような感想を寄せた学生は、すべて「英語 Study Skills」を履修している1年生であった。すべての学生がインターネットを利用する環境に慣



れていないことからの戸惑いが感じられる。同じ1年生でも、日本語クラスの留学生から類似のコメントが「いいえ」の理由としてまったくあがらなかったことは興味深い。「英語 Study Skills」の履修クラスには、情報処理の必修クラスが年度後期に予定されているものもあったことから、これらの学生にはキャンパス内の学生利用コンピューターの施設が充実していることが充分伝わっていないのではと考えられる。

ホームページにアクセスをしたことのない学生は、一般的にこのような形での授業支援策には否定的な印象を持っていることが考えられる。実際にホームページを利用した学生に限定して集計すると、肯定的な回答は71%となった。

(Q. 他の教員にも授業連絡用のHPを作ってほしいと思いますか?)



グラフ7 授業連絡用HPについての意見 (ホームページを利用した学生)

しかし、ホームページを利用した学生の中でも11%(7名)が授業連絡用ホームページを希望しないと回答している。その理由として、以下のようなものあげられた。

- ・作ってくれても忙しくて見られないと思うから。(英語 Study Skills)
- ・メーリングリストで充分だと思います。(英語セミナーレベル3)

ホームページを希望しない場合でも、メーリングリストという、インターネットを使った情報発信を代替案として提示している回答が興味深い。

次に、学生に情報を発信した教員の立場から見た授業支援用ホームページの利用について述べることにする。

## 6. 教員サイドから見たホームページの利用

ホームページの利用の仕方と感じる利点は教員によって多少の違いはあると思われるが、本プロジェクトにおいて教員が感じた利点は以下のとおりである。

### (1) 宿題・予習の内容が確実に伝わる

授業において板書などを用いて説明しても、宿題や予習の情報が学生に明確に通じていない場合がある。そのような場合に、学生がホームページの連絡事項で情報を確認し、印刷物としてダウンロードできることは大きな利点となり得る。予習に役立つと思われる参考文献やインターネットの情報へのリンクも提示できる。学生は自分の好きな時間にそれらの情報を使って授業内容の理解を深めることができる。また、欠席者に対しても次回クラスまでに宿題・予習資料のダウンロードができることも大きな利点である。

この点については学生から多くのコメントが寄せられた。

- ・宿題や提出物がはっきりわかるからよい。(日本語1年生 III-B)
- ・授業でわからないことがあったら調べられますから。(日本語1年生 III-B)
- ・授業中聞きもれがあれば、HPを見るとわかる。(日本語1年生 III-B)
- ・確実に情報が伝わるので。(言語学概論 III)
- ・授業で聞き逃した必要事項が聞けるから。(英語セミナーレベル3)
- ・連絡事項については、聞き逃した時には非常に役立ちました。(英語 Study Skills)

(2) 補足資料の閲覧の簡便さ

日本語クラスの新聞記事の要約課題では、インターネット上の朝日新聞公式サイトにある過去の日曜版の記事を利用した。それらの記事のいくつかには、クリックすると拡大するグラフ等の資料が添付されており、その閲覧はネット上の方が適当であった。また、言語学概論クラスでは、授業内容の復習として補足課題をホームページで発表し、その解答を次回授業で扱うという利用法も試みた。

(3) 補足情報の掲載

授業で時間をとって紹介するほどの重要性はないが、特定の話題に関心を持つ学生には有用であると考えられる情報を掲載することができた。例としては、「言語学概論 III」のクラス別ページにリンクを設置した、アメリカ言語学会の公式サイトにおける「エボニックス」問題への見解や、授業内容に関連した推薦図書などがあげられる。これについても、学生が自分の都合のよい時間に閲覧できることのメリットは大きいと思われる。

(4) Q&A の利用

ホームページにおける Q&A の利用は学生からも好評であったが、教員にとっても利用価値は大きいと思われる。授業の前後に学生から質問を受ける機会は少なくないが、その際に時間の制約から充分答えることができない場合もある。また、関連資料が手元にないので学生が求めている情報をうまく提示できないことも多い。次回授業までに資料を用意できても、それについて学生に個人的フィードバックを与える時間があるとも限らない。ホームページに Q&A を設けておけば、授業終了後に確実な情報を調べて答えを掲載することができる。また、関連情報がネット上にある場合にはリンクを設定することも可能である。

質問は個々に行われていても、そこで交換される情報は同じクラスの学生にも役に立つものが多い。Q&A という形で他の学生も読めるようにしておくことはクラス全体にとって有益であろう。この形式だと、質問者が特定されることがないことも一つのメリットと感じる学生もいるのではな

いだろうか。

(5) プリント作成業務の軽減

教員のホームページでは、授業内で配布したプリント資料の訂正版や補足分をサイトからダウンロードするように指示することも可能である。授業で使用するプリントを前の週に印刷できるようにするという利用のしかたも大いに考えられる。また、シラバスなどの配布プリントを学生が紛失するようなことがあっても、サイトからダウンロードするように指示できるので、余分なプリントを保管する必要がない。

(6) クラス間での資料の共有

「Study Skills」と「英語セミナー (レベル3)」は英語習得のためのクラスであり、「言語学概論 III」と「英語セミナー (レベル3)」は言語学の初級クラスであるという点で、それぞれのカリキュラムには重なった部分が存在している。すべてのクラスの情報を同じサイトに置くことによって、自分が履修していないクラスのリンクにある情報を参考資料として利用することも可能である。また、すべてのクラスに共通して必要なスキルである「論を組み立て、表現する」技術についての推薦図書の紹介も共通サイトでは容易に行える。

(7) 教員・研究者間の情報の共有

語学クラス・概論クラスは多くの大学で開設されているクラスである。今回取り上げたホームページに掲載されているような参考文献やリンク集は、類似のクラスを担当している他学部・他大学の教員との共有も大いに考えられる。研究面でも、入手困難な論文を著者が PDF 形式でダウンロードできるリンクを設定することは、特に海外のサイトでは盛んに行われている。

このように、教員ホームページは場所や時間にかかわらず、多くの人が情報を交換・共有できるインターネットの特色が、教育・研究の両面において生かされる可能性を秘めた利用法であるといえよう。上で述べたポイントのうち、(1)(3)(4)については、アンケートで学生の指示を集めた学

ることが、学生と教員の双方に正しく理解されているのである。

アメリカの大学のHPでは、教員や大学院生のメールアドレスが無制限に公開されることは珍しくない。5.1.節で述べたように日本の大学教員の間では慎重論が多く聞かれるが、ウェブ閲覧者に制限を加えることが必ずしも授業支援HP運営の第一条件にはならないことも指摘しておきたい。むしろ、教員・研究者間の交流の促進にとっては、閲覧者の制限がない方が望ましいともいえるかもしれない。

## 8. まとめ

この報告書では、授業支援用ホームページの内容紹介と、それを利用した学生・教員のコメントを通して、今後の教員ホームページ作成に求められる性質について考察した。学生・教員のそれぞれにとってのメリットについて論じ、また、海外で運営されている授業支援用ウェブサイトについての最新の情報を報告した。教員による対面式の講義を支援するホームページ利用の実践例として今後のHP開設および運営の参考になれば幸いである。

コンピューターを使った遠隔学習を可能にする「eラーニング」も、教室での授業にとってかわるような存在でないことは、多くの場所で指摘されている。たとえば白石他(2001・第5章)では、遠隔教育と対面教育との融合が理想的な教育形態であることが明確に述べられている。「eラーニング」プロジェクトが、コンピューター学習を対面授業で補完するような関係、もしくは遠隔学習と対面学習が同じウエイトである状況と比較すると、今回のホームページプロジェクトにおいては、あくまでも対面授業が「主」であり、インターネットの利用がそれを補完するという異なった関係になっていることをあらためて指摘しておきたい。

ハード・ソフト面での一般利用の経費面・操作面のハードルが低くなるにつれ、教育機関でのメディア利用が奨励されている。しかし、その具体的な利用法については各現場のコンピューター環境の違いもあることか

ら、未ださまざまな形態での「実験」が続いているのが現状である。本プロジェクトでは、抜本的なIT環境の変化をとまわず、個々の教員が対応できる範囲でどのような教育現場へのインターネット利用が可能かを模索した試みである。今後は、双方向性を付加した、よりeラーニングに近い形のホームページ利用を検討したい。

## 謝辞

このプロジェクトに参加してくれた学生諸氏に感謝の意を表したい。ホームページ作成にあたっては志村明彦氏・松岡悦子氏、アンケート結果の解釈・分析には柏崎千佳子氏のご協力をいただいた。聞き取り調査においては、コネチカット大学のWilliam Snyder教授に貴重な情報を提供していただいた。ここで報告されたプロジェクトの実施は「平成14年度経済学部研究教育資金」の補助を受けている。すべての文責は筆者にある。

## 参考文献

- ・白石克己・廣瀬敏夫・金藤ふゆ子 2001年『ITで広がる学びの世界』ぎょうせい
- ・先進学習基盤協議会(編著) 2002年『2002/2003年版 eラーニング白書』オーム社

## Constructing and Using a Homepage to Support University Students in Foreign Language and Introductory Lecture Courses

Kazumi Matsuoka

This paper reports about the homepage that the author constructed to provide academic support to students in four different courses at Keio University, Japan, during the 2003-2004 academic year. The purpose of the project was to gain insight into the possible types of content that could be presented in a homepage to help students better learn the material presented in class. The types of students in the four courses were briefly reviewed and the content of the homepage, developed for this project, was described in detail. In the following sections, the results from the student evaluation of the homepage, which was conducted in July 2003, were summarized and analyzed. Most students evaluated the homepage favorably and described the types of content that were particularly useful to them. Based on the comments provided by the students, the advantages of using a Web site to support students in university courses were considered in the discussion section. Advantages from the instructor's point of view were also presented.